

平成27年度 アジェンダ21すいた 事業活動報告

1 フラッグシッププロジェクト

歩きたくなるまちづくり

第3回すいたエコウォーク ～なぞを探してウォーキング～

1 事業内容

平成27年11月14日(土)、新しくなったJR岸辺駅を中心として、岸部界隈をエコな観点で歩く「第3回すいたエコウォーク」を開催した。雨混じりの曇り空だったが、イベント開催の午前中は雨が降らず実施できた。

今回は、大阪学院大学の学生が実行委員として最初から参加してくれたおかげで、若い感性によるアイデアで進めることができた。

当日のスタッフも大阪学院大学の学生が多数参加してくれた。

コースの下見も何度も行い改善を重ねた結果、コースは一つとし、5つのクイズポイントでクイズをとく、4つのエコポイントを通過するという、歴史的観点やエコな観点の見どころ満載のイベントとなった。

最終ゴール地点でのワークショップ会場として、大阪学院大学の施設をお借りすることができた。

また、地元の方のご協力により、旧中西家の見学(普段は申し込み制)をコースに加えることができ、参加者に喜んでいただいた。

省エネ型ライフスタイルの普及・啓発や、自然エネルギーの利用を促進するための仕組みづくりを進めることができた。

コースの説明

クイズポイント【5か所】(①常光寺、②吉志部神社、③吉志部瓦窯跡、④大光寺、⑤岸部南公園<防災公園>)を回ってクイズでなぞときをし、エコポイント【4か所】(A岸辺駅北側空地(特定外来生物「ナルトサワギク」を駆除した現場)、B ローソン岸部北三丁目店(マイボトル体験、希望者のみ、有料)、C 岸辺駅陸橋上(CO₂削減につながる貨物列車のターミナル)、D フレンドマート平和堂(ペットボトルをつぶす機械による回収))をすべて回り、大阪学院大学にゴールする。

9時にJR岸辺駅に集合、Aの岸辺駅北側空地で、特定外来生物ナルトサワギクの説明を聞いた後、北側に向けてウォークを開始、①の常光寺を過ぎ、松並木の吉志部神社参道を通って石段を上り、②の吉志部神



社へ・・・ここから少し下り、その昔、須恵器を作っていた③の吉志部瓦窯跡を見て、再び参道を引き返す。Bのローソン岸部北三丁目店でマイボトル持参の人にマイボトル体験（飲み物が10円引きで買える）をしてもらった。

ここから旧中西家住宅に行く道は、茅葺屋根の民家が残っていて、趣ある路地を歩くのが楽しい。「吹田吉志部文人客迎賓館」として公開されている旧中西家住宅を見学し、④の大光寺に立ち寄る（太子館は、聖徳太子を顕彰するために建てた2階建ての建物で、洋風の建築技法が取り入れられた国登録有形文化財）。JR岸辺駅に戻り、線路をまたいで陸橋を渡る。これまでは駅改札へ行くのも駅の向こう側へ渡るのも暗い地下道を通っていたが、ガラス張りの明るい陸橋を通って行くことができるようになった。

Cの岸辺駅陸橋上からは広大な敷地の吹田貨物ターミナルが見える。トラック輸送に比べて貨物列車はCO₂排出量が少ない利点がある。南側の最初の地点でDのフレンドマート平和堂のペットボトル圧縮機械（ペットボトル回収拠点）を見て、⑤の岸部南公園（防災公園）ではマンホールを開けるとトイレになる防災トイレや太陽光照明を見学後、ゴール地点の大阪学院大学に到着。ここでワークショップをして、ウォーキングの振り返りをし、参加者の皆さんに意見や感想を述べてもらった。

ウォーキング後のワークショップ



参加者からは、「ナルトサワギク、防災トイレ等、初めて見聞きすることが多く有意義だった。」「マイボトル・マイカップを持参すると飲み物が値引きになるサービスは良いと思うが、あまり知られていないのでは?」、「思いもかけず行ってみたいと思っていた旧中西家住宅を見られて、大変嬉しかった。」などの感想が寄せられた。

なぞときの答え合わせをし、協賛企業からの賞品の授与があり、参加賞を配って終了となった。地元や吹田市内の企業10社から、イベントに賛同し協賛をいただいた。

参加者には、これまで何気なく通り過ぎていた街並みの中に新たな発見がたくさんあり、車を使わずに歩くことでCO₂削減と健康につながることを少しでもわかっていただけたのではないだろうか。

【参加者：71名】

【支出金額：118,317円】

2 実施評価及び課題

これまでエコウォークを3回実施してきたが、北、南、西とエリアを変えて行ってきた。今回は、現役の大学生を実行委員に加えることができ、地元の自治会や施設の関係者とも連絡を密に取ることができた。企業からの協賛も多く得られた。

課題は、エコウォークを通じて、「歩く」ことがCO₂削減や脱車社会へつながることへの説明が不足していたことであり、今後の在り方を検討する必要がある。

3 参加メンバー

伊藤忠征、岩元喜代子、大澤浩子、奥田倫子、笹倉俊男、寺西信昭、戸坂篤子、中野政男、馬場慶次郎、福井一彦、福田規子、水川晶子、三輪信哉、森田宏

【すいた環境学習協会】牛田敏英、西尾昌、前田正博、安本修

【すいた市民環境会議】小田忠文、小田信子、高畠耕一郎

【大阪学院大学事務局】増田汐里、南智之

【大阪学院大学学生スタッフ】川畑陽介、山崎裕己、浅井、江藤、大野、岡本、加藤、貫戸、北浦、栗原、阪本、高田、田中、谷川、花田、平野

2 全体事業

(1) CO₂ダイエット学校版プロジェクト

1 事業内容

これまで吹田市では、「アジェンダ21 すいた」の協力のもと、個人や事業者が取り組むべき温暖化防止実践行動のガイドラインとして、「地球温暖化防止ガイドライン」の「市民版」、「大学生版」、「事業者版」、「開発・建築版」を策定してきた。

また、「アジェンダ21 すいた」と吹田市の協働事業として「暮らしのCO₂ダイエット」を作成し、省エネなど市民のライフスタイルをかえる取組みを進めてきた。そして、さらに、未来を担う児童生徒が、学校で地球温暖化を学び実践することが大事と考え、新たに「すいたんのエコライフチェック（CO₂ダイエット学校版）」を企画し、市域全体の学校に拡げていこうと検討した。

将来的には、市内の全小学校で温暖化防止の実践的な授業が行われることで、温暖化防止の行動が市域全体に浸透していくものと期待される。

1-1 他市の同類の小学校向け教材を複数例収集

京都市、枚方市の実施内容についてヒヤリングを行った。枚方市では夏休みの宿題として配布・回収するのみだが、京都市では、研修を受けた市民が、夏休み前後にワークショップ

を学校ごとに2回ずつ、実施していて、市によって実施方法は様々であることがわかった。
大半は、冊子を作成することはしても、利用するかしないかは学校側にゆだねているケースが多いのが実情であった。

1-2 教材の作成

(公財)千里リサイクルプラザの協力のもと、小学生高学年を対象に、教材として使うことのできる「すいたんのエコライフチェック」(A4サイズ、8頁、カラー刷り)を作成した。

1-3 授業案の作成

このプロジェクトの初年度として、作成した教材を使った温暖化授業の二つの授業案を作成した。授業案は45分授業で、内容は、「化石燃料から二酸化炭素が発生する」、「地球温暖化が進むと起きる問題」、「二酸化炭素を出す自分たちの日常の行動とは」、「温暖化を防ぐ自分でできる行動とは」の順に理解を進めるものとなるよう作成した。

1-4 授業の実施結果

作成した教材を使用し、授業を実施する形態で、吹田市内の小学校3校で実施した。

1) 吹田第一小学校

実施日：平成27年9月7日(月)

対象：6年・47名

実施内容：授業+授業感想

2) 千里丘北小学校

実施日：平成27年7月14日(火)

対象：4年・26名

5年・10名

6年・14名

実施内容：授業+授業感想

3) 豊津第二小学校

実施日：平成27年夏休み期間

対象：6年・86名(1組・27名、2組・30名、3組・29名)

実施内容：授業+授業感想+回答が記載された教材の回収



【支出金額：11,000円】

2 実施評価及び課題

吹田第一小学校、千里丘小学校、豊津第二小学校の3校で作成した教材をもとに授業を実施した結果、児童は興味津々といった様子で熱心に耳を傾け、夏休みの宿題としても楽しみながら取り組んでいたようだった。また、教材・授業自体も、温暖化をはじめ環境問題について興味を持つ契機となっていることがわかった。

今回の実験的实施を通じて、今後の教材・授業の普及のために、今後次のような取り組み方が考えられる。

- 1)各小学校のエコクラブのメニューとして位置付ける。
- 2)希望する教員が自身の授業の中で取り入れる。
- 3)夏休みや冬休みの宿題として教員が「すいたんのエコライフチェック」を生徒に配布し、休み明けに回収した宿題回答にNPO/NGOがコメントを付けて返却する。

以上の取り組みは吹田市の全小学校で普及することによって、温暖化防止の認識と行動が行き渡ることになる。そのためにも、今後の組織体制の確立、試験実施の学校数の増大などが課題となる。

3 参加メンバー

奥田倫子、馬場慶次郎、福井一彦、三輪信哉、森田宏、山中貞志（（公財）千里リサイクルプラザ）

（2）地球温暖化問題プロジェクト「すいた地球温暖化防止実践デー」

1 事業内容

幹事会にて、市民一人一人に地球温暖化問題を考えてもらうための新たなプロジェクトの検討を進め、学生や、NPO 団体、事業者と連携した楽しく身近な啓発イベント等を企画するプロジェクトチームを発足することを決定した。

【支出金額：0円】

2 実施評価及び課題

種々の企画を検討しているが、プロジェクトチームのメンバーが確定していないため、今後はメンバーを確定し、企画の具体化に向け会議を重ねていく必要がある。

3 参加メンバー

市内各大学の学生や事業者に、企画グループへの参加を呼びかけている。

(3) 市内環境団体との連携・交流をはかるための連絡会などの開催を検討する。

1 事業内容

連絡会を開催することはできなかったが、他の環境団体とともに「すいた環境教育フェスタ」へ運営委員として参加し、連携交流を図った。

また、平成 28 年 2 月 11 日（土）のフェスタ当日には、「すいたエコウォーク」の実施報告や、エネルギー部会がおもちゃを使った「太陽光発電のしくみ」や太陽光パネルの紹介、「エコ双六」の実施、資源部会が「マイボトル・マイカップ推進の啓発パネル展示」や「レ



シ袋削減活動についての展示」、自然部会が「植えてはいけない・特定外来生物・オオキケンケイギク・ナルトサワギク」のパネル展示をするなど、子どもたちや来場された多くの人たちに啓発を行った。

【支出金額：9,616 円】

2 参加メンバー

伊藤忠征、伊藤智子、大澤浩子、奥田倫子、笹倉俊男、中野政男、福井一彦、水川晶子、森田宏

(4) エコツアー及び市内企業・事業所における環境への取組勉強会の実施

1 事業内容

再生可能エネルギーの導入促進の一環として、平成 28 年 5 月 25 日（水）、「風力発電施設見学」を目的とした『エコ・ツアー』を実施した。

風力発電には、発電量が 1kW 以下のマイクロ風力発電から、1500～2000kW の大型風力発電所まで様々なものがある。

今回のツアーの行程は、吹田市役所を朝 8 時 30 分に出発し、和歌山県御坊市の関電『EE パーク』を見学、次に、和歌山県広川町の『大型風力発電所』を見学、最後に、黒潮市場に寄り、18 時に吹田市役所に帰る、というものだった。

(1) 日高港新エネルギーパーク EE パーク

見学した主な施設は以下である。

① マイクロ風力発電機

離島や山小屋など電気がない場所や災害時の非常用電源などに利用されるマイクロ風

力発電(プロペラ型・垂直軸型)

② 太陽光発電と風力発電を組み合わせた小型ハイブリッド型発電機

発電した電気を蓄電し、夜間照明や非常用電源として利用される。この風力発電システムは、すでに街路灯等に全国的に爆発的に採用が広がっている。

③ 小形風力発電機(くじら型)

最大出力 10kW、かわいいクジラ型の風力発電機である。小型風車は、中・大型風車に比べ、立地や風などの条件が緩やかで、中小企業や商店、個人宅などで比較的容易に導入が可能である。

④ 最大出力 100kW の太陽光発電設備

⑤ マイクロ水力発電設備

◆再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度では、太陽光発電の買い取り価格が下がる中、小型風力は高値で売電でき、FIT の中でも、最も優遇された条件となっている。

小型風力発電とは風車で電気を作る発電機で、出力 20 kW 未満のものを言い、1 kW 時当たりの買い取り価格(税別)が 55 円(買い取り期間は 20 年)、同出力 20 kW 以上の風力発電は、22 円である。

(2) 広川町風力発電所

本施設は定格出力 1,500kW の大型風力発電所で、広川町が事業主体となり進められたものである。

風力発電所のある広川町山本地区は、標高 80m の丘の上、夏は南東の風、冬は海から吹く北西の風で電気を作る。

タワーの高さ 64.7m、ローター直径φ70.5m、最大到達高さ 99.95m。さすがに巨大だった！

◆再生可能エネルギーの中でも大型風力発電は、2035 年までに最も発電量の増加が大きいと見込まれる分野であり、今後数年で急増する見通しである。

日本風力協会(東京・港)によると、2015 年末で 303 万 8 千キロワットの発電能力は、2020 年代初めには 1000 万キロワットと約 3 倍になる。それは、原子力発電所 10 基分に相当する(日経新聞 2016 年 5 月 20 日)。

【参加者：35 名】

【支出金額：148,128 円】



2 実施評価及び課題

風力発電の理解を深めることができ、参加者からは「勉強になりました。」との感想があったが、タイムスケジュールがタイトであり、企画検討にも十分な時間をかける必要があると感じた。

3 参加メンバー

奥田倫子、中野政男、福井一彦、森田宏、吉田誠

(5) ニュースレターの発行

事業内容

会員への情報提供及び市民への環境保全活動の普及を目的に、年4回（平成27年7月、10月、平成28年1月、4月）発行した。

【支出金額：99,339円】



(6) ホームページの管理・運営

事業内容

平成27年6月から平成28年5月にかけて、「アジェンダ21すいた」の活動を広く市民に情報発信した。

【支出金額：33,788円】

(7) 北摂アジェンダ組織との情報交換

事業内容

平成27年6月29日（月）に、「とよなか市民環境会議アジェンダ21」の総会に参加し、情報交換を行った。

【支出金額：0円】

(8) 定時総会運営事業

事業内容

平成27年7月11日(月)に定時総会を開催し、大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所の当麻潔氏による講演会「私たちの暮らしとエネルギー」及び懇親会を実施した。

【支出金額：14,347円】



(9) その他

事業内容

組織運営における事務改善を進めた(消耗品の購入、郵送料等)。

【支出金額：139,002円】

3 部会別事業

【エネルギー部会】

1 事業内容

省エネ型ライフスタイルの普及・啓発や、自然エネルギーの利用を促進するための仕組みづくりを進める。

(1) 自然エネルギーの施設見学会と勉強会の実施

種々の自然エネルギーについて学習し、現段階で研究が進んでいる最新情報を得ることができた。また、この見学会をとおして、吹田市で実用可能性の高いものは何であるかと議論をかさねた。

① 村野浄水場見学会(大阪広域水道企業団村野浄水場)

小水力発電他

実施日：平成27年6月18日(木)

参加者：8名



② 関西電力本社ビル地区地域冷暖房システム 地域熱供給 システム

吹田市自然体験交流センター 地中熱

実施日：平成27年7月7日(木) 参加者：7名

③神戸市建設局 東水環境センター バイオガス事業（メタンガス）

実施日：平成27年9月24日（木） 参加者：8名

④日本ノバポン工業 木質燃料

実施日：平成27年10月15日（木） 参加者：6名

⑤京都市廃食用油燃料化施設 バイオガスディーゼル（一般家庭からの廃油）

実施日：平成27年11月19日（木） 参加者：6名

⑥DNS 堺バイオエタノール事業所

バイオエタノール（建築廃木材や缶ジュース等）

実施日：平成27年12月17日（木）

参加者：7名



【支出金額：67,620 円】

(2) エコキャンドル作り（資源部会と共催）

詳細は【資源部会】に記載。

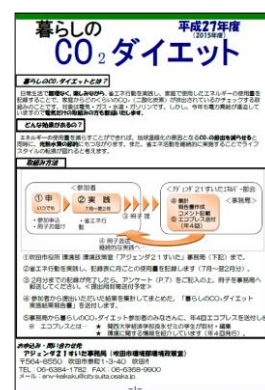
(3) 「みどりのカーテン」の普及・啓発活動（自然部会と共催）

詳細は【自然部会】に記載。

(4) 暮らしのCO₂ダイエット

吹田市独自の環境家計簿を作成・配布し、市民の地球環境に配慮したライフスタイルの普及を図った。提出者は142世帯であった。

【支出金額：50,112 円】



(5)「エコプレス」の発行

「暮らしのCO₂ダイエット」参加者等を対象に、環境に関する情報提供のツールとして、年4回（7月、10月、1月、4月）「エコプレス」を発行した。

取材・編集は、関西大学良永ゼミの学生の皆さんが行っている。

【支出金額：60,000円】



(6) 省エネ・節電セミナー

家庭でお得な省エネ・節電セミナーを省エネルギーセンターの宇田吉明氏を招いて実施した。

実施日：平成28年3月12日（土）

会場：千里市民センター

参加者：17名

【支出金額：0円】



2 実施評価及び課題

緑のカーテン講座は毎年継続して実施しており、子どもたちにもわかりやすく、楽しい説明を心がけている。

エコキャンドル作りは、博物館と公民館で今年度は2回実施した。楽しい催しで、子どもたちの環境学習として実践できた。今後、単発でなく実施可能な地域で数回行い、市民意識の向上を図っていくようにする。

また、再生可能エネルギーの調査は、見学だけでなく実用可能性を追求していく必要がある。今後は水素エネルギーについてもテーマとして取り上げて調査をし、勉強会、セミナーを計画する予定である。

3 参加メンバー

奥田倫子、笹倉俊男、中野政男、馬場慶次郎、福井一彦、森田宏、山本修巳、吉田誠

【資源部会】

1 事業内容

持続可能な循環型社会をめざすため、使い捨てのライフスタイルを改め、ものを大事にする意識の啓発と、ごみを生まない資源循環の仕組みを形成する。

(1) ごみの減量・資源化のための啓発

①マイバッグキャンペーン

「すいたレジ袋削減・マイバッグ推進協議会」のメンバーとしてマイバッグキャンペーンに参加した。

◇店頭でのマイバッグキャンペーン

平成27年6月25日～11月26日

13店舗

◇北摂地域共通キャンペーン

各市の“ゆるきゃら”が勢ぞろいし、各市の市民団体とマイバッグキャンペーンを実施した。

平成27年11月3日 イオンモール茨木

配布ティッシュ2000個

スタッフ（各市職員、市民団体）41名



②風呂敷の包み方講習会

「すいたレジ袋削減・マイバッグ推進協議会」の一員として、マイバッグキャンペーンへの参加や、母子会まつり、すいた環境教育フェスタ、吹田産業フェアにおいて、「風呂敷講習会」を行い、多くの参加者へ啓発を行った。

◇「すいたレジ袋削減・マイバッグ推進協議会」のメンバーとしての活動

・第14回母子会まつり

平成27年12月12日（土） 場所：メイシアター 講習参加者：40名

・すいた環境教育フェスタ

平成28年2月11日（土） 場所：メイシアター 講習参加者：120名

◇「資源部会」の活動

第33回吹田産業フェアに出展

平成28年5月7日（土）、8日（日） 場所：メイシアター 講習参加者：110名

【支出金額：10,800円】

(2) あなたが見つかるエコなお店 in 吹田

3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進や、省エネなど環境や人にやさしい取り組みを行っている吹田市内のお店を応援するため、「アジェンダ 21 すいた」のニュースレターやホームページで、ラコルタの子ども向けおもちゃ交換会“かえっこバザール”、自社製品を店頭回収して難民支援に役立っている“ユニクロ”、靴を使い捨てせず、修理して長くはくことでごみの減量につながっている“靴の修理屋さん”を紹介した。



【支出金額：0円】

(3) 市内に給茶ができるスポットを広げる取組み

第3回すいたエコウォークにおいて、マイボトルを奨励しているコンビニの協力により「給茶体験」を行い、マイボトル持参推進を呼びかけた。

また、すいた環境教育フェスタで給茶コーナーを設け、マイボトル・マイカップ持参の方に給茶サービスを行った。

① すいたエコウォークでの給茶体験

平成 27 年 11 月 14 日（土） 場所：ローソン岸部北三丁目店 持参者：15 名

② すいた環境教育フェスタでの給茶コーナー

平成 28 年 2 月 11 日（木・祝） 場所：メイシアター 持参者：30 名
リユースカップ利用者：70 名

【支出金額：3,979 円】

(4) エコキャンドル作り（エネルギー部会と共催）

博物館にて、家庭で出た廃油の再利用や拠点回収場所への持参をよびかけ、キャンドルイベント等への参加のきっかけとなることを目的に、エコキャンドル作りを実施した。

また、地球温暖化防止に向けた意識啓発として、キャンドルイベント等の実施への可能性を検討した。

① 博物館講座室

実施日：平成 27 年 8 月 15 日（土）

対象：小学生（親同伴）30 名

② 千里新田地区公民館



実施日：平成 27 年 12 月 6 日（日）

対象：子ども（親同伴）40 名

【支出金額：4,446 円】

2 実施評価及び課題

「レジ袋削減」については、すいたレジ袋削減・マイバッグ推進協議会の一員として「マイバッグキャンペーン」や「風呂敷講習会」を行ってきた。また北摂7市共同のマイバッグキャンペーンは3回目を行う事ができた。

また、「エコなお店 in すいた」のニュースレター掲載を継続して行う事ができ、さらなる店舗発掘により独自の表彰制度につなげたい。

廃油からできるエコキャンドル講座については博物館で2回目を実施し、公民館での講座も実施することができた。廃油の有効利用を呼びかけるとともに、キャンドルイベントへの発展も視野に入れて取り組んでいきたい。

3 参加メンバー

伊藤智子、岩元喜代子、大澤浩子、佐藤信行、戸坂篤子、福田規子、水川晶子、三輪信哉

【自然部会】

1 事業内容

吹田市域において、生物多様性に配慮し、自然を守り育てる活動を展開し、人と自然が共生できる環境づくりを推進する。

また、啓発活動や講習会を通じて、広く市民の環境意識を高めることを目指す。

（1）みどりのカーテンの普及・啓発活動（エネルギー部会と共催）

平成 27 年度に実施した「みどりのカーテン講座」の参加者に呼びかけ、「みどりのカーテン写真コンクール」を実施した。

また、ヒートアイランド現象の緩和に資するものとして、みどりのカーテン講座を実施した。今回は、みどりのカーテンとポタジェガーデン（家庭菜園）についての講義、ゴーヤを使ったみどりのカーテン作りの実演を行い、参加者にはゴーヤの苗 2 株を配



布した。

また、各種イベント等で、みどりのカーテンの普及・啓発を行った。

◇みどりのカーテンコンクール

応募者：14名

◇みどりのカーテン講座

実施日：平成28年4月16日（土）

場所：千里山コミュニティセンター

参加者：80名

【支出金額：49,337円】

（2）博物館エコアップ作戦

吹田市立博物館の夏季展示（平成27年7月18日（土）～8月23日（日））を活用し、ポタジェガーデンを博物館の大階段の上に設置して家庭でも出来る緑の花やハーブ、野菜等を育てることで地産地消につながり、生物多様性等、自然環境の改善にもつながることを啓発した。

【支出金額：0円】

（3）生物多様性の啓発

夕方の時間帯に植物や虫の観察会を開催して、木の葉が緑から黒に変化して暗闇になる様子や、葛の葉が夜になると寝ることや、夕方の6時まではツクツクボウシが鳴いていたのがコウロギやキリギリスの鳴き声に変わり、耳が慣れると様々な虫の声が聞き分けられる等、昼間とは違った自然観察ができた。

実施日時：平成27年9月5日（土）

17時30分～19時30分

場所：北千里公園

参加者：40名

【支出金額：12,000円】



(4) ～シンポジウム～「未来への預かり物、吹田の自然って何だろう」を開催

武田義明神戸大学名誉教授の吹田の自然の現状と課題についての基調講演、その後、自然環境に関わる方のパネルディスカッションをし、吹田の守るべき自然についての啓発を行った。

実施日：平成 28 年 5 月 28 日（土）

場所：千里山コミュニティセンター

参加者：40 名

【支出金額：42,252 円】



2 実施評価及び課題

今年度は、生物多様性に関するパンフレットの改定と、吹田市の自然に焦点をあてた観察会が主たる事業であったが、部会員同士の時間的調整が難しいこと等で、達成できなかったことが反省でもあり、今後の課題ともなった。しかしながら、実施した活動に関しては十分な啓発効果があった。

観察会は、夕暮れ時から日没の時間帯で開催し、植物の生態の変化や、昼間では体験できない虫の声に耳をすませる等、暗闇の草原の観察ができた。

緑のカーテン講座では、ゴーヤの育て方の実演、ポタジュガーデンについての啓発や参加者全員に苗の配布をする等で、市民の参加の増加につながった。

シンポジウムでは、北千里公園に残されたチガヤ草原と希少種の野草等、市民の関心も高いテーマであったので好評であった。

今後の部会の課題としては、より多くの市民に関心を持っていただき、会員数の増加につなげるため、自然部会のメンバーを増やす努力が必要である。

3 参加メンバー

伊藤忠征、喜田久美子、寺西信明、馬場多佳子、藤田和則、森田宏

【交通部会】

環境に優しい交通システムの実現・検討に向け、新たな部会員を継続して募集した。

【支出金額：0 円】